

財団法人 西日本産業貿易コンベンション協会

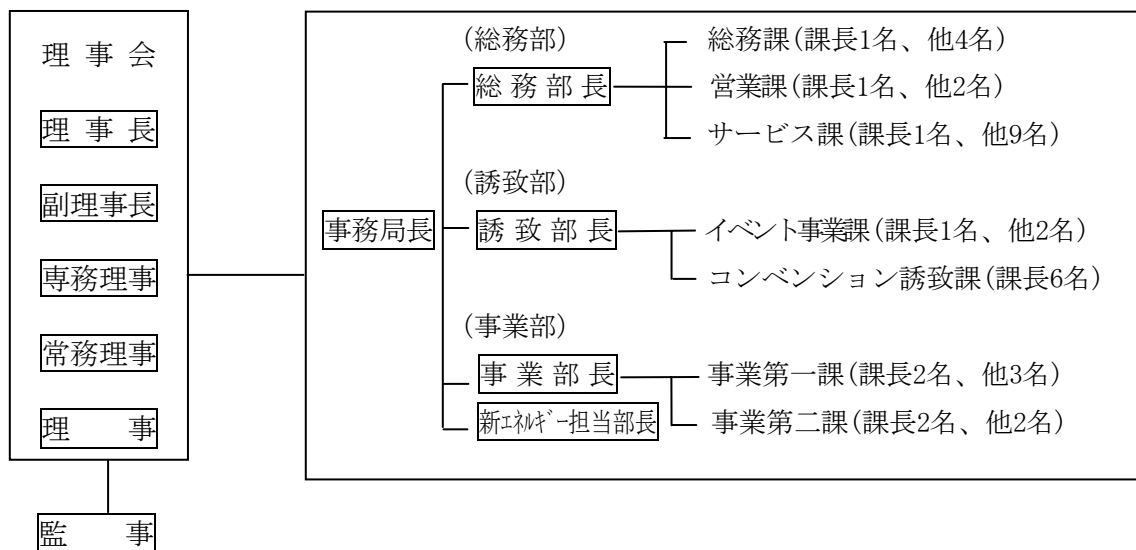
当協会は、内外の工業製品等の展示紹介を通じて西日本地域の産業の高度化と貿易の振興を図り、もってわが国経済の健全な発展に寄与することを目的に昭和51年に通商産業大臣認可で設立され、平成17年7月に（財）北九州コンベンションビューローの機能を統合し、名称を（財）西日本産業貿易コンベンション協会に変更しました。

現在は、昭和52年に建設された西日本総合展示場（現本館）と北九州国際展示場（平成10年4月に市が設置）及び北九州国際会議場（平成2年10月に市が設置）を一体的に管理・運営しながら、各種見本市・展示会の開催や会議・大会等の誘致をしています。

〔設 立〕	昭和51年3月25日
〔所 在 地〕	北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号 Tel 093-511-6848
〔目 的〕	内外の工業製品等の展示紹介を通じて、西日本地域の産業の高度化と貿易の振興に資するとともに、北九州市におけるコンベンションの誘致、支援等を通じて地域の活性化及び文化の向上に資し、もってわが国経済の健全な発展に寄与する。
〔事 業〕	(1) 内外の工業製品等の展示会、見本市等の開催、誘致及び支援 (2) 各種会議、大会等コンベンションの誘致及び支援 (3) 前2号の事業の用に供する施設の管理及び運営 (4) 前各号に掲げるもののほか、この法人の目的を達成するために必要な事業
〔基本財産〕	2,480,075千円 <うち本市出捐額 1,750,000千円 (70.6%) >
〔決算期〕	毎年3月31日
〔主務官庁〕	経済産業省、九州運輸局
〔本市所管〕	産業経済局観光部観光・コンベンション課 (Tel 093-582-2054)

1 法人の組織（平成22年12月1日現在）

(1) 機構図



(2) 役職員数

	人数	人数の内訳			平均年齢
		うち本市出向者	うち本市退職者	うちその他	
役員	22人	3人	0人	19人	62歳
職員	41人	8人	0人	33人	44歳

(3) 役員名

- [理事長] 重瀨 雅敏
- [副理事長] 麻生 渡、北橋 健治、明賀 孝仁
- [専務理事] 小林 正己
- [常務理事] 村上 英治
- [理事] 古川 康、中村 法道、蒲島 郁夫、広瀬 勝貞、東国原 英夫、伊藤 祐一郎、仲井眞 弘多、二井 関成、松尾 新吾、吉川 卓志、河部 浩幸、中野 文治、小野 卓爾
- [監事] 加藤 憲治、羽田野 隆士、磯部 久治

2 主な事業実績（平成21年度）

(1) 見本市・展示会事業

西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与するため、国や地域の行政機関等の施策や方針と連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画、開催した。

また、事業評価委員会からの提言等により、新たな事業の企画、より積極的な広報活動を行った。

① 主催・共催事業

1) 当協会が主催・共催した主な見本市・展示会

地域における産業・貿易の振興を目的として、当協会は以下のとおり見本市・展示会を企画、開催した。

※（ ）内は昨年度実績

事業名	開催期日	入場者数	出展社数
①西日本インポートフェア2009	H21年5月2日～6日	45,881人 (55,032)	210社 (122)
②第49回西日本総合機械展	6月11日～13日	18,853人 (24,820)	33社・団体 (73)
③第35回ふくおか産業技術振興展			40社・団体 (36)
④アジア産業交流フェア2009			46社・団体 (34)
⑤第31回西日本陶磁器フェスタ	9月19日～23日	41,251人 (46,859)	189社 (154)
⑥エコテクノ2009	10月21日～23日	33,260人 (34,656)	134社・団体 (149)
⑦エコベンチャーメッセ2009			37社・団体 (22)
⑧水素エネルギー先端技術展2009			37社・団体 (44)
⑨中小企業テクノフェア I N九州2009			38社・団体 (43)
⑩九州・国際テクノフェア I C T 2009	11月11日～13日	8,581人 (27,942)	78社・団体 (70)
⑪P. P. C. 2009第11回西日本国際福祉機器展	11月27日～29日	19,786人 (39,034)	147社・団体 (211)
⑫第29回西日本トータルリビングショー			
合計	12事業	167,612人 (228,343)	989社・他 (958)

2) セミナー・シンポジウム等の併催

1) に掲げる当協会の主催・共催事業と並行して、セミナー・シンポジウム等を同時開催し、事業の相乗効果を高めた。

*テーマ数 51 テーマ

*総参加者数 6,026 名

② 誘致・支援事業

総合的な営業力の強化に向けて、「営業推進本部」を設置し、営業課とサービス課の連携強化による効率的な営業を進め、企業・団体が主催する展示会、各種イベントなどの誘致に取り組んだ結果、平成21年度は49件のイベント等が開催され、約12万人の動員があった。

③ 関係団体との連携事業

1) 主催事業における産学官連携

主催事業のうち、産業技術分野の展示会では、国、県、市等の地域政策の推進にあたり、行政機関はもとより、大学や関係団体、研究機関等と連携し、効果的な事業推進を図った。

2) アジアとの連携・交流

ア 第16回九州（日本）・韓国経済交流会議の開催

九州経済産業局の所管する「第16回九州（日本）・韓国経済交流会議」の日本側事務局として関係団体・機関との交流を図った。

イ 第9回環黄海経済・技術交流会議への参加

九州経済産業局が所管し、環黄海経済・技術交流会議が実施した「第9回環黄海経済・技術交流会議」に参加し、関係団体・機関との交流を図った。

ウ 主催事業におけるアジア企業との連携

主催事業名	企業出展内容	関係国・機関等
西日本インポートフェア2009	2社、3小間	韓国優良製品振興協会
	8社、20小間	タイ国政府貿易センター
	10社、10小間	スリランカ大使館
	4社、4小間	インドネシア貿易振興センター
アジア産業交流フェア2009	30社・団体、24小間	韓日産業・技術協力財団
	12社・団体、12小間	上海交通大学等
	3社・団体、3小間	タイ国大使館 経済・投資事務所
	1社・団体、1小間	ハノイ駐日代表部（ベトナム）
エコテクノ2009	8社（セミナー商談会）	中国遼寧省環境保護庁
	11社（交流会）	中国大連市環境保護産業協会

(2) 会議・大会等

都市間競争が激化する中、本市の活性化に寄与し、多大な経済効果が見込める大型コンベンションを誘致するため、全国のキーパーソンに積極的かつ計画的に誘致活動を行った。

特に、平成21年度からの開催助成金制度の拡充を受け、積極的に誘致活動を行った結果、国際規模や全国規模のコンベンションの誘致開催が決定した。

また、にぎわいづくりと経済波及効果を創出するため、北九州国際展示場（新館大展示場）の無料貸し出しを開始し、平成21年度には6件が実施された。

① 主催・共催事業

北九州国際会議場の大型ハイビジョンを活用した俳句、将棋、映画の上映等文化事業や異業種交流を目的とした事業や小倉駅北口にぎわいづくり事業など、子どもから年長者まで幅広い年齢層を対象にした特色のある各種事業を実施した。

*総事業数 5 事業
*総入場者数 6,086 人

② 誘致・支援事業

コンベンションの誘致分野においては、都市間競争が年々激化の一途を辿っている。平成21年度においても誘致活動を有利に展開するため、引き続き開催助成金や支援の制度を活かすとともに新規分野の開拓にも努め、大型のイベントやスポーツ大会をはじめ、会

議・学会等の誘致件数増加を目指して積極的な活動を行った結果、開催件数は前年度を上回った。

1) コンベンション開催助成金の拡充による成果

平成21年度から実施されたコンベンション開催助成金の拡充を受け、積極的に誘致活動を行った結果、21年度には延べ192件の開催、22年度以降には延べ125件の開催が予定されている。

2) 誘致・支援活動の取り組み

ア 会議主催者への誘致活動

工学、環境、医学など北九州市の特性や強みを活かせる分野を中心に、国際会議、大型学会等の誘致を目指し、市内の大学（九州工業大学、北九州市立大学、早稲田大学、産業医科大学、九州歯科大学）や九州大学、山口大学などのキーパーソンを対象として誘致活動を行った。また、首都圏の学会事務局やPCO（プロフェッショナル・コンGRESS・オーガナイザー）への営業も積極的に行うとともに、必要に応じて北九州市と連携した誘致活動を実施した。

また、平成22年3月24日にホテルセントラザ博多を会場に、九州大学、福岡大学等のキーパーソン10名の参加を得て、学術交流会を開催し、今後の学会誘致への協力体制の強化に努めた。

イ 大会主催者への誘致活動

スポーツ、文化、職域団体などの各種団体に対し誘致活動を実施した。首都圏などの団体事務局も積極的に訪問し、大型の大会誘致に取り組んだ。

また平成22年2月19日に国際会議場を会場に、福岡県体育協会やスポーツ競技団体のキーパーソン35名の参加を得て、スポーツコンベンション情報交換会を開催した。

俳句の誘致については、平成5年より取り組んでおり、それにより広がった俳句結社・主宰とのネットワークを活用して大会・吟行の誘致活動を行った。

平成21年度は、三大協会の一つ「伝統俳句協会」の九州支部大会、兵庫県の結社「山茶花」の全国大会などを誘致し、市内各地を巡る吟行会を支援した。

【国際ミーティング・エキスポ（IME2009）への出展】

東京国際フォーラムで開催された日本で唯一のコンベンション関係展示会・トレードショーである「第19回国際ミーティング・エキスポ（IME2009）」に出展し、来場したキーパーソンに北九州空港、本市のコンベンション施設・助成金制度の拡充等の支援内容、観光・文化施設などを紹介し誘致活動を行った。

ウ 東アジア地区への誘致活動

東アジア地区の研究者、大学教授等とネットワークを持つ地元工学系の大学・大学院教授（キーパーソン）を通じ、国際コンベンションの誘致活動を行った。ターゲットは台湾、中国、韓国、香港、シンガポール、タイ方面とし、地元教授が出席する学会・会議に同行し、現地キーパーソン、会議参加者等に北九州市開催をPRした。

【第17回IT&CMA2009への出展】

タイ国バンコク市で開催されたアジア地域最大級の展示会である「第17回インセンティブ・トラベル&コンベンション、ミーティング・アジア（IT&CMA2009）」に出展し、オーガナイザー・旅行社30社と商談を行った。

エ コンベンション助成金

平成6年度より北九州市コンベンション開催助成金制度を導入し、コンベンション誘致を積極的に展開してきた。

*助成件数	61	件
*助成金	49,420	千円

オ コンベンションボランティア

国際会議での語学応援、会場応援や日本文化体験など、ボランティア登録者が広く活躍できるよう主催者に対し、ボランティア制度のPRを積極的に行った。

*派遣件数 4 件

*派遣人数 44 人

3) 誘致結果

◆誘致件数及び参加者数の推移

区 分	国際	全国	その他	合計
誘致件数 (件)	50	66	76	192
参加者数 (人)	35,094	51,676	30,680	117,450

(3) フィルム・コミッション事業

北九州市の情報発信・イメージアップ、地域再発見・映像文化の向上・映像産業振興などを図るため、積極的に映像撮影の誘致・支援事業に取り組んだ。

なお、当事業は平成21年度末をもって終了し、平成22年度より北九州市役所において引き続き事業に取り組むこととなった。

ア 映画・ドラマの支援作品 10件

放送、配給 or 製作	タ イ ト ル	撮影期間	公開日・放映日
NHK	「風に舞い上がるビニールシート」	H21. 4. 5	H21. 7. 4
フジテレビ	「すすめ! ひかり侍」	H21. 6. 6~7 H21. 7. 6~7	H21. 7. 13
NHK	「坂の上の雲」	H21. 8. 5	H21. 12. 27
東宝	映画「THE LAST MESSAGE 海猿」	H21. 8. 16~29 H21. 11. 7~11. 9	H22. 9. 18
東映	映画「交渉人 THE MOVIE」	H21. 9. 10~12	H22. 2. 11
フジテレビ	「フジテレビ開局50周年記念ドラマ わが家の歴史」	H21. 9. 29~10. 1 H21. 10. 4	H22. 4. 9~11
NHK	「わたしがこどもだったころ-藤原新也編-」	H21. 10. 28~10. 31	H22. 1. 6
NHK	「清張を巡る対話 高村薫・佐木隆三 往復書簡」	H21. 10. 9~28	H21. 12. 7
テレビ朝日	「サラリーマン金太郎2」	ロケはなし。支援のみ	H22. 1. 8~3. 12
日本テレビ	「霧の旗」	H22. 2. 21~22	H22. 3. 16

イ ロケ隊による直接的経済効果

*ロケ隊人数 409 人

*直接経済効果 99,307 千円

ウ 市民参加

フィルムコミッションの活動を広く市民に周知するとともに、映像製作支援の一環として積極的な市民参加を図った。エキストラとして延べ610人、ボランティアスタッフとして延べ130人、合計延べ740人の参加があった。

エ 北九州映画村の実現可能性調査の実施

さらなるロケ誘致と様々な面でのまちづくりを推進し、「映画の街・北九州」を目指すことを目的として、北九州のロケの中核となるオープンセット（特に映画会の要望の強い昭和20～40年代の街並み）を持った映画村の実現可能性及びその効果などを検証するための調査を実施した。

国内現有施設（庄内映画村、ワープステーション江戸）の現地調査や映像制作者に対するヒアリングなどを実施し、調査の結果、映画村に対するニーズや課題も判明した。

(4) 広報・宣伝活動

施設の利用促進や施設利用者のサービス向上及び見本市・展示会、会議・大会等各種コンベンションの誘致を積極的に図るため、ホームページの活用や機関誌の発行、新聞並びに業界紙等様々な媒体への広告掲載など効果的な広報・宣伝活動を行った。

特に、コンベンション開催助成金の拡充について、国際ミーティングエキスポ（IME2009）でのPRや業界紙に広告を掲載するなど積極的に広報・宣伝を行った。

① 広報・宣伝

1) インターネットの活用

当協会のホームページのリニューアル等、内容の拡充を図るとともに、催事情報や施設情報など最新の内容を逐次更新、提供した。

2) 機関誌「CO-」の発行

機関誌の発行を通じて、主催事業や誘致した展示会・イベント・学術会議・スポーツ大会など独自のコンベンション情報や市の観光・文化等に関する情報などを広く紹介した。（年4回 5,000部/回）

3) コンベンションカレンダーの作成と提供

市内で開催される様々なコンベンション情報を収集・整理し、コンベンションカレンダーとして定期的に賛助会員等への提供を行った。

4) コンベンションゾーンのPR

小倉駅北口コンベンションゾーンの知名度の向上を図るため、看板設置やCM放映を行った。

ア ペDESTリアンデッキ案内表示板のリニューアル

JR小倉駅と会場を結ぶペDESTリアンデッキ上の案内表示板の運用により、主要催事の会場誘導を促進した。

イ JR小倉駅JAM広場内でのCM放映

協会のCMを製作し、小倉駅JAM広場に設置しているマルチビジョンで放映した。

*CM放映期間：5月1日～3月31日、放映回数 約70回/日

ウ 北九州空港電照看板の設置

継続して、北九州空港に電照看板を設置し、遠方よりの来訪者に小倉駅北口コンベンションゾーンのPRを実施した。

5) 営業ツールの作成

会場の認知度向上と利用促進のため10年カレンダー、メモ帳、クリアフォルダーなどの営業ツールを作成し、会場利用者を中心に配付した。

6) コンベンション開催助成金制度のPR

北九州市の緊急経済対策の一環として拡充されたコンベンション開催助成金制度について、全国的な情報発信を行うため、IME2009でのチラシ配布や、E&C、見本市展示会通信、MICE Japan等でのPRを行った。

② 地域の特性に応じた取り組み

1) 駅のある展示場事業（JR九州等との連携）

ア ポスター掲示

JR小倉駅と連結した本施設の立地環境をPRするため、JR小倉駅・北九州主要駅（5駅）に常設掲示板を設置するとともに、JR九州及びJR西日本各駅に主催事業のポスター等を掲示し、市内外からの集客向上を図るためのネットワークづくりに取り組んだ。

イ リーフレット作成

小型時刻表・壁貼り型時刻表へ展示場の広告を掲載した。また、協会の主催事業である展示会案内とJR九州の主力情報をセットにしたリーフレットを共同制作し、JR九州管内の駅で配布した。

2) 小倉駅北口の振興

ア 小倉駅北口地区振興連絡会との連携

ホームページ「ホクホクガイド」の運営により、小倉駅北口で開催される各種イベントや地図情報などを紹介。当該地区を訪れる方々が回遊できるようにした。

北九州ミュージックプロムナード2009事業の一環として行なわれる「北九州ミュージックフェスタ in 紫川2009」の開催に先立ちプレライブを開催。小倉駅北口地区ににぎわいを創出した。

* 開催月日：平成21年9月21日(月・祝)～9月23日(水・祝) 3日間

* 会場：展示場中庭、AIMビル2階ギャラリー

* 集客延人数：計900人

また、クリスマスの時期にあわせ、各々の団体にポインセチアのフラワーポットを配付し、地域の美化活動に取り組んだ。

イ 木下大サーカス小倉公演の開催支援

読売新聞西部本社・FBS福岡放送主催、北九州市、各教育委員会等の後援による「ライガーミラクルイリュージョン☆木下大サーカス」小倉公演が開催され、会場運営や広報・宣伝等の支援に取り組んだ。

* 開催月日：平成21年4月25日(土)～6月30日(火)

* 会場：小倉駅北口シンボルロード予定地

* 集客延人数：23万人

(5) 運営・管理

西日本総合展示場本館、新館及び北九州国際会議場の施設管理者として、公平・公正な管理を行うとともに3施設の一体的な管理により効率的・効果的な管理運営を図った。

① 営業推進本部の展開

展示場及び会議場の利用促進と稼働率の向上を図るため、営業推進本部を中心に、営業とサービスが一体となった取り組みとともに、営業の拡充を図った。

1) 営業戦略

- ア 顧客リストの修正・追加を実施し、営業先業種分類を行なった。
- イ 施設利用者を業態別に分類して、定着のための営業を行なった。
- ウ 業態別の新規営業開拓を実施した。
- エ 営業本部長（総務部長）を中心に、営業推進会議を実施した。

2) 成果

- ア 営業課とサービス課の連携強化等により、前年比12件増となる106件の誘致を実現した。
- イ 定着営業、新規利用者の開拓、過去利用者の復活をねらいとして約1,600事業所に営業を実施した。
- ウ コンサート利用など新しい利用形態（業種）の開拓により収入アップできた。
- エ 営業戦略会議の開催による営業情報の共有化と顧客サービスの向上が図れた。

② お客様満足度の向上

1) サービスの維持向上

ア ご意見、ご要望等の収集及び対応

お客様利用満足度について、「お客様の声」アンケートに、案内表示がわかりづらいなどの意見が寄せられたが、すぐに改善できるものは、早急に対応するなど、細部にも心配りをした施設運営を心がけた。

イ 新型インフルエンザ対策の実施

昨年4月に発生が確認された新型インフルエンザの第一波流行に備え、全施設のトイレに殺菌用ハンドソープを設置するとともに館内の日常アルコール清掃や放映インフォメーションなど予防対策を徹底した。また、利用者の要請に応じて有償でのマスクや消毒剤の提供を行った。

③ 管理業務の効率化

1) 管理経費の削減

当協会が管理する3施設とキプロが所有するA I Mビルの4施設一体管理契約による効率化を図り、昨年に引き続き経費節減を行った。

さらに、主催事業委託等の各種契約において、複数業者による価格競争を徹底し経費の削減を行った。

2) エコアクション21認証取得と環境への取り組み

環境への意識を高め環境経営を目指すため、環境省策定の「エコアクション21」認証を平成21年7月に取得し、より一層環境活動に取り組み、事務経費の削減、周辺地域への貢献などに努めた。

④ 施設の改善

利用者・来場者への利便性、安全性の向上を図るため、施設設備の改修改善等を実施した。

- 1) 西日本総合展示場本館改修改善関係
 - ・ エントランス等雨水管改修工事（漏水改善工事）
 - ・ 本館駐車場バリカー増設工事
 - ・ 本館駐車場管制設備システム更新工事
- 2) 西日本総合展示場新館改修改善関係
 - ・ AIM 3F展示場調光照明設備新設工事
 - ・ 新館バックヤード壁面塗装工事
 - ・ ピット内排水管高圧洗浄
 - ・ 屋外掲出バナー新規製作
- 3) 北九州国際会議場改修改善関係
 - ・ メインホール・国際会議室照明卓改修工事（市発注）
 - ・ イベントホール天井照明（スターライト）補修工事
 - ・ 小会議室内壁面塗装工事

⑤ 稼働率等

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)	成約高 (億円)
西日本総合展示場 (本館)	88	255	69.9	24	83
西日本総合展示場 (新館)	136	262	72.6	33	49
北九州国際会議場	712	313	86.7	7	—

3 市の関与の状況

(単位：千円)

区 分	平成20年度	平成21年度
出 捐 金 の 状 況	1,750,000	1,750,000
補 助 金	2,000	2,000
委 託 料	667,799	355,788
貸 付 金 残 高	0	0

4 資産・収支の状況（平成21年度決算）

(1) 貸借対照表

平成22年3月31日現在（単位：円）

科 目	一般会計	展示会 特別会計	誘致支援 特別会計	指定管理 特別会計	収 益 特別会計	内部取引 消 去	合 計
I 資産の部							
1. 流動資産							
現金預金	101,488,641	37,404,862	8,708,079	72,823,187	24,035,715	0	244,460,484
印紙・証紙	0	0	0	0	9,166,003	0	9,166,003
未収金	7,640,325	16,072,080	0	42,130,844	1,981,435	0	67,824,684
前払金	0	0	0	1,380,000	0	0	1,380,000
短期貸付金	11,000,000	0	0	0	0	0	11,000,000
一般会計貸付金	0	0	727,138	0	11,845,828	▲ 12,572,966	0
展示特別会計貸付金	53,808,133	0	0	12,719,425	0	▲ 66,527,558	0
誘致特別会計貸付金	0	0	0	99,900	0	▲ 99,900	0
指定特別会計貸付金	15,743,038	0	0	0	0	▲ 15,743,038	0
仮払金	2,704,269	0	0	1,536,000	1,505,125	0	5,745,394
流動資産合計	192,384,406	53,476,942	9,435,217	130,689,356	48,534,106	▲ 94,943,462	339,576,565
2. 固定資産							
(1) 基本財産							
建物	575,749,139	0	0	0	0	0	575,749,139
建物付属設備	101,408	0	0	0	0	0	101,408
構築物	2,559,937	0	0	0	0	0	2,559,937
機械及び装置	109,391,385	0	0	0	0	0	109,391,385
基本財産引当資産	858,409,984	0	0	0	0	0	858,409,984
減価償却引当資産	933,863,631	0	0	0	0	0	933,863,631
基本財産合計	2,480,075,484	0	0	0	0	0	2,480,075,484
(2) 特定資産							
退職給付引当資産	125,777,252	0	0	0	0	0	125,777,252
減価償却引当資産	17,826,422	0	0	0	0	0	17,826,422
特別修繕引当資産	579,100,429	0	0	0	13,200,000	0	592,300,429
事業開催引当資産	12,196,778	0	0	0	0	0	12,196,778
特定資産合計	734,900,881	0	0	0	13,200,000	0	748,100,881
(3) その他固定資産							
建物	3,542,175	0	0	0	0	0	3,542,175
構築物	0	0	0	0	3,482,976	0	3,482,976
車両運搬具	3,545,825	0	0	0	0	0	3,545,825
什器備品	6,502,906	0	0	0	309,892	0	6,812,798
ソフトウェア	2,670,553	0	0	0	0	0	2,670,553
投資有価証券	593,312	0	0	0	0	0	593,312
その他固定資産合計	16,854,771	0	0	0	3,792,868	0	20,647,639
固定資産合計	3,231,831,136	0	0	0	16,992,868	0	3,248,824,004
資産合計	3,424,215,542	53,476,942	9,435,217	130,689,356	65,526,974	▲ 94,943,462	3,588,400,569

II 負債の部							
1. 流動負債							
未払金	14,104,175	8,174,266	5,662,951	53,087,666	22,649,247	0	103,678,305
前受金	2,172,310	13,847,700	1,646,862	23,914,939	0	0	41,581,811
預り金	32,645,690	5,000	5,554	1,678,870	0	0	34,335,114
仮受金	362,250	0	2,019,950	49,000	456,900	0	2,888,100
未払法人税	0	0	0	15,500,000	0	0	15,500,000
一般会計借入金	0	53,808,133	0	15,743,038	0	▲ 69,551,171	0
誘致特別会計借入金	727,138	0	0	0	0	▲ 727,138	0
指定特別会計借入金	0	12,719,425	99,900	0	0	▲ 12,819,325	0
収益特別会計借入金	11,845,828	0	0	0	0	▲ 11,845,828	0
賞与引当金	11,817,009	0	0	0	0	0	11,817,009
流動負債合計	73,674,400	88,554,524	9,435,217	109,973,513	23,106,147	▲ 94,943,462	209,800,339
2. 固定負債							
退職給付引当金	125,777,252	0	0	0	0	0	125,777,252
固定負債合計	125,777,252	0	0	0	0	0	125,777,252
負債合計	199,451,652	88,554,524	9,435,217	109,973,513	23,106,147	▲ 94,943,462	335,577,591
III 正味財産の部							
1. 指定正味財産							
寄付金	856,000,000	0	0	0	0	0	856,000,000
展示場設備受贈益	736,101,174	0	0	0	0	0	736,101,174
基本財産運用益	2,409,984	0	0	0	0	0	2,409,984
指定正味財産合計	1,594,511,158	0	0	0	0	0	1,594,511,158
(うち基本財産への充当額)	(1,594,511,158)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1,594,511,158)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産							
	1,630,252,732	▲ 35,077,582	0	20,715,843	42,420,827	0	1,658,311,820
(うち基本財産への充当額)	(885,564,326)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(885,564,326)
(うち特定資産への充当額)	(609,123,629)	(0)	(0)	(0)	(13,200,000)	(0)	(622,323,629)
正味財産合計	3,224,763,890	▲ 35,077,582	0	20,715,843	42,420,827	0	3,252,822,978
負債及び正味財産合計	3,424,215,542	53,476,942	9,435,217	130,689,356	65,526,974	▲ 94,943,462	3,588,400,569

(2) 収支計算書

自 平成21年4月 1日

至 平成22年3月31日 (単位：円)

科 目	一般会計	展示会事業 特別会計	誘致支援事業 特別会計	指定管理者受託 事業特別会計	収益事業 特別会計	内部取引 消 去	合 計
I 事業活動収支の部							
1. 事業活動収入							
基本財産運用収入	20,204,005	0	0	0	0	0	20,204,005
特定資産運用収入	5,791,952	0	0	0	0	0	5,791,952
会 費 収 入	5,922,000	0	0	0	0	0	5,922,000
事 業 収 入	78,067,953	146,556,573	0	257,754,951	69,309,254	0	551,688,731
補助金等収入	0	16,042,242	27,259,588	334,278,710	0	0	377,580,540
負担金収入	14,193,324	0	0	14,237,965	9,610,118	0	38,041,407
雑 収 入	3,130,104	4,483,805	0	16,634,165	5,942,059	0	30,190,133
他会計繰入金収入	23,139,488	0	43,011,806	5,526,006	0	▲ 71,677,300	0
事業活動収入計	150,448,826	167,082,620	70,271,394	628,431,797	84,861,431	▲ 71,677,300	1,029,418,768
2. 事業活動支出							
事業費支出	52,301,098	153,287,723	25,133,100	534,766,252	58,954,867	0	824,443,040
管理費支出	5,415,425	18,034,143	63,435	40,950,939	4,308,273	0	68,772,215
その他事業活動支出	0	0	0	28,492,516	2,346,884	0	30,839,400
他会計繰出金支出	2,000,000	408,651	9,551,938	44,011,806	15,704,905	▲ 71,677,300	0
事業活動支出計	59,716,523	171,730,517	34,748,473	648,221,513	81,314,929	▲ 71,677,300	924,054,655
事業活動収支差額	90,732,303	△ 4,647,897	35,522,921	△ 19,789,716	3,546,502	0	105,364,113
II 投資活動収支の部							
1. 投資活動収入							
基本財産取崩収入	309,935,000	0	0	0	0	▲ 309,935,000	0
特定資産取崩収入	330,523,496	0	0	0	0	▲ 329,830,496	693,000
投資有価証券売却収入	402,000	0	0	0	0	▲ 310,713	91,287
投資活動収入計	640,860,496	0	0	0	0	▲ 640,076,209	784,287
2. 投資活動支出							
基本財産取得支出	361,191,541	0	0	0	0	▲ 309,935,000	51,256,541
特定資産取得支出	378,855,653	0	0	0	3,200,000	▲ 329,830,496	52,225,157
固定資産取得支出	1,066,800	0	0	0	0	0	1,066,800
投資有価証券取得支出	413,243	0	0	0	0	▲ 310,713	102,530
投資活動支出計	741,527,237	0	0	0	3,200,000	▲ 640,076,209	104,651,028
投資活動収支差額	▲ 100,666,741	0	0	0	▲ 3,200,000	0	▲ 103,866,741
III 財務活動収支の部							
1. 財務活動収入							
財務活動収入計	0	0	0	0	0	0	0
2. 財務活動支出							
財務活動支出計	0	0	0	0	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0	0	0	0	0
当期収支差額	▲ 9,934,438	▲ 4,647,897	35,522,921	▲ 19,789,716	346,502	0	1,497,372
前期繰越収支差額	140,461,453	▲ 30,429,685	▲ 35,522,921	39,125,559	25,081,457	0	138,715,863
次期繰越収支差額	130,527,015	▲ 35,077,582	0	19,335,843	25,427,959	0	140,213,235